

## プロジェクトAAFについて

主宰 松原伸一 (Arts-ist of Media Informatics)

### 名称について

正称は、「プロジェクトAAF<sup>※</sup>」ですが、



略称として「PJTAAF」を、



通称として「pjtaaf」を、使用しています。

### プロジェクト形式の効用

問題解決に際しては、「現場に答えがある」と考えています。

だって、現場で生じた問題なのだから。



でも、現場に居ては答えは見つからないことがある。だから問題なのですよね。



ならば、どうすれば良いのでしょうか？



それは、「理論と実践の往還」から「理論と実践の融合」へと熟成させることと  
と考えています。



このことが、この度の研究組織を「プロジェクト形式」にした主な理由です。

### 筆者の経験から

「A&C 芸術とコンピュータ」(2022年4月創刊)より

理論と実践の考察については上誌に委ねることにし、ここでは、そのポイントを簡潔に述べましょう。

筆者が教職大学院の設置に係って専任教授になった時、戸惑ったことがありました。それは、教職大学院では実践研究が求められたのですが、その際、実践とは何か、理論とは何か、という点が気にかかったのです。つまり、これらの概念が、自然科学分野、人文社会分野、実践科学分野、…のように、それぞれの専門分野で相違があり、それを前提にして、どのようにして研究を実践するかということでした。

教育現場(学校)から派遣された教員(教職大学院生)の中には、時に「大学院で理論を学びに来た訳ではない」とか「研究をするために入学した訳ではない」という意見が見られた。だったら、実践が継続できる現場に居れば良いのであって、わざわざ大学院で学ぶのものとはいったい何なのだろうかと。

今から思えば、当時の彼らに感謝の意を伝えたい。プロジェクト形式にこだわるのはこの経験が依拠しているのです。

※ プロジェクトAAF → <https://pjtaaf.com/>